

別紙

## 福祉サービス第三者評価の結果

### 1 評価機関

|   |                          |
|---|--------------------------|
| 名称：<br>一般社団法人 しなの福祉教育総研   | 所在地：<br>長野県上田市下之条 804-39 |
| 評価実施期間：令和2年 9月 1日から令和3年 2月 15日<br>*契約日から評価結果の確定日（通常、評価結果報告会日）まで |                          |
| 評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載）<br>050431 B18051 B18052                |                          |

### 2 福祉サービス事業者情報（令和2年11月現在）

|  |  |                               |
|--|--|-------------------------------|
| 事業所名：公益財団法人鉄道弘済会長野保育所<br>(施設名) (りんどう保育園)     | 種別：保育所   |                               |
| 代表者氏名： 理事長 浅井 克巳<br>(管理者氏名) 園長 吉川 好貞         | 定員（利用人数）： 60名（66名）                               |                               |
| 設置主体：公益財団法人鉄道弘済会<br>経営主体：公益財団法人鉄道弘済会         | 開設（公益財団法人）年月日：<br>1932年 2月 25日<br>(2013年 10月 1日) |                               |
| 所在地：〒380-0803<br>長野県 長野市三輪5丁目44-12           |  |                               |
| 電話番号： 026-232-1773                           | FAX番号： 026-232-1873                              |                               |
| 電子メールアドレス：rindou-ho@kousaikai.or.jp          |  |                               |
| ホームページアドレス：www.kousaikai.or.jp/rindou/nagano |  |                               |
| 職員数  | 常勤職員： 12名<br>非常勤職員 12名                           |                               |
| 専門職員   | 園長 1名  |                               |
|  | 副園長 名  |                               |
|  | 保育教諭 9名  |                               |
|  | 栄養士 2名   |                               |
| 施設・設備<br>の概要                                 | (居室数)  | (設備等)                         |
|  | 乳児ほふく室 1室  | 便所 5                          |
|  | 保育室 4室   | 遊戯室 1                         |
|  | 子育て支援室 1室  | 園庭 砂場、複合滑り台、ブランコ、<br>登り棒、鉄棒、等 |
|  | 調理室 1室   |                               |
|  | 事務室 1室   |                               |

### 3 理念・基本方針

|   |
|---|
| [保育理念]<br>・一人ひとりの子どもを大切に、保護者や地域社会から信頼され、選ばれる保育所を目指す |
| [教育・保育目標]<br>・心身ともに健やかで心の豊かな子どもの育成                  |

## 4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

長野市街地北東部に位置する当園は、国宝善光寺をはじめとした寺院や神社、美術館等が近くに点在し、歴史を感じさせる街並みの中にあります。また、県内最大級ともいわれる団地にも隣接しています。

当園を運営する全国組織の鉄道弘済会は、昭和7年の創設以来、社会福祉分野においても先駆的な役割を果たしてきました。多方面にわたる事業の一環として、全国24か所で認可保育所・認定こども園を展開しています。社会人育成という長く広い目で捉えた幼児教育・保育の分野で、共通の教育・保育理念のもと、各地域の伝統文化・地域交流を大切に、地域に根差した保育所・こども園の運営に日々取り組んでいます。

### ○ICT機器導入により働きやすい職場環境を整備しています。

- ・近年のワークスタイル多様化への対応をすすめています。
- ・ICT化で保育所コミュニケーションアプリ「コードモン」を導入して、園と保護者との連絡、園からのお知らせ、登降園管理、アンケート、カレンダー等の機能を活用、緊急連絡やお便り発信、連絡帳のやり取りをはじめ、最小限に各種連絡を発信することが可能で、登降園管理機能と連動して、欠席や延長保育も管理しています。その結果、職員の省力化も図ることができ、子どもたちに関わる時間を増やすことにつながっています。
- ・ICT化により個人情報の管理がより厳重になっています。園から発信した画像を含む情報は保存やコピーなどの編集ができないよう設定しており、個人情報の流出防止と共に保育士自身を守ることもつながっています。

### ○3歳以上は異年齢保育を基本としたクラス編成です。

- ・家庭的な環境の中で子ども同士の学びの機会を増やしています。
- ・友だちとの幅が広がることで豊かな人間関係を培い、思いやりの気持ちや向上心、自信、自己肯定感が育っています。
- ・異年齢保育を基本としながら年齢の育ちや個人差に配慮し、柔軟的な年齢別保育も取り入れています。

### ○法人が持つ専門性を活かした障がい児保育を実践しています。

- ・鉄道弘済会が展開する施設やサービスでのノウハウを基に専門的なアドバイスを受けるなど、法人全体のサポートがあります。
- ・各機関との連携を図り、研修にも参加して専門性を高めています。
- ・子どもたちが、「社会には様々な人がいる」ことを知り、互いの個性を尊重しようとする気持ちや姿勢を身につけることを目指して法人の理念のもと、障がい児保育をすすめています。

### ○地域交流を大切にし、各種事業を行っています。

- ・地域の未就園児親子を対象に、子育てサロン、育児講座、子育て相談、図書貸し出し、情報発信等、地域に根差した子育て支援事業を行っています。
- ・敬老会、老人福祉施設との交流により、地域とのつながりを深め、地域福祉に貢献を図っています。体験を通して子どもたちも地域に関心を持ったり、親しみや自分から関わろうとする気持ちが育っています。

### ○専門職による保育指導があります。

- ・体操指導専門の先生による体操教室を通して、園児の心と体を育てています。
- ・音楽指導専門の先生による音楽遊びで、歌や楽器の指導でリズム感覚を養い、簡単な手遊びや全身を使い自ら表現する楽しさを学んでいます。
- ・専門職による指導は職員の研修にもなり、より専門性の高い保育方法・技術を学んでいます。

### ○食育を大切にし、食べ物への感謝や郷土を愛する心を育てています。

- ・野菜等の栽培をし、収穫の時期を知って育てた野菜を食べることで食への関心や意欲を育てています。
- ・家庭や地域社会との連携を図り、栄養士や調理員、保育士が専門性を活かしてすすめています。
- ・アレルギー、宗教食、また体調等にも考慮した幅広い食事を提供しています。
- ・様々な地域の伝統的な食事（郷土料理）を通していろいろな食材や文化等を知り、メニューを楽しみながら郷土を愛する心を育てています。日本、世界古来の行事も大切にして食文化にも触れる機会を設けています。

### ○各種研修が充実し職員の育成、資質向上に向けた取り組みが行われています。

- ・法人や関係機関等による学びの場が多くあります。地域だけではなく法人の全国規模の公開保育や保育セミナーに参加し、課題の共有化や組織全体の保育レベルと資質の向上が図られています。各世代に合わせた様々な研修会や通信教育講座受講の助成、海外研修の機会もあり、自己啓発に取り組んでいます。
- ・園内において職員がそれぞれの研修リーダーとなる仕組み作りを園内で実践し、子どもが主体的に活

動するために職員が常に提案し合って研修や研鑽を重ねています。

## 5 第三者評価の受審状況

|               |                   |
|---------------|-------------------|
| 受審回数（前回の受審時期） | 4 回（平成 25 年 12 月） |
|---------------|-------------------|

## 6 評価結果総評（利用者調査結果を含む。）

### ◇特に良いと思う点

○全国組織である鉄道弘済会の基本理念・方針が社会福祉分野において先駆的であり、保育園運営に活かされています。

- ・様々な福祉事業を展開する法人の教育・保育理念に基づき、安定した園の運営、社会福祉に関する知識、技術の向上が図られており（全国規模の公開保育、セミナーの開催・研修、講習会参加・研究誌の発行・資料室の運営等）組織としての強みが、利用者や職員の信頼につながっています。その成果として、利用者アンケートの満足度の高さ、職員一人ひとりの向上心や理念の理解度、園への信頼度が高いことが、自己評価の具体的なコメントや聞き取りから確認でき、法人や園の人材育成が活かされていることがわかりました。
- ・ICTの活用により家庭との密な連携、施設管理や働きやすい職場づくり、円滑な業務遂行が図られています。

○「遊びを通しての学び」を大切にされた保育が展開されています。

- ・保育士は子どもたちがどんなことに興味や関心を持っているのか、常に、よく観察しています。その上で育てて欲しい力を明らかにし、保育士が主導するのではなく、子どもが意欲的に取り組もうとする「きっかけ作り」の保育をしていました。
- ・子どもの気持ちに寄り添えるよう、子どもと同じ目線に立ち、保育士自身の想像力を働かせながら言葉かけをしています。
- ・地域への関心を深めるとともに、商業施設に関心を持たせることで子どもたちがより意欲的に、楽しみながら自分の住む地区に関心を持てるよう遊びを工夫しています。地域にあるお店さんを訪問し、その店で扱う商品をテーマにしたごっこ遊びにつなげるなど、子どもたちの「やりたい」気持ちを導き、「やってみよう」「できた！」の体験を積み重ねて満足感や達成感を味あわせていました。
- ・感染症の流行等により見送りになった行事を、職員の発想の転換やアイデア、工夫により、子どもたちのワクワクする気持ちを満足させ、更に新しい経験につなげる保育がみられました。園長や主任、保育士が連携し、必要な保育材を研究して準備するなど、子どもたちの楽しい経験につなげています。
- ・保育士は様々な情報収集をしたり、大学教授の指導等を受けたりして常に専門知識の習得に努めていました。

○多様化する保育ニーズを把握し的確に対応する取り組みがありました。

- ・家庭と保育園が理解し合い、より良い関係が築けるよう保育の意図を丁寧に説明し、子どもの姿や活動の様子をドキュメンテーションとしてきめ細かく発信していました。
- ・保育運営の充実に向けた計画に利用者の意見を反映するため、保護者のニーズを把握することを目的として、アンケートを実施しています。
- ・保護者の提案や疑問、保護者同士のつながりを図るため、保護者が提案しやすい取り組みをしていました。
- ・職員アンケートも実施しています。

### ◇特に改善する必要があると思う点

○保護者への情報発信に工夫が望まれます。

- ・ICT化導入により保育士のゆとり、保護者の安心、公平な時間管理や効率化、連絡事項の徹底など園運営における先進的な取り組みが評価される場所ですが、常にこまめに発信をチェックする保護者ばかりではなかったり、使いこなせなかったりする保護者もいることを考慮し、登降園の際などには、意識的に直接の声掛けをしていかれるよう、工夫が期待されます。

7 事業評価の結果（詳細）と講評

- ・ 共通評価項目（別紙 1）
- ・ 内容評価項目（別紙 2）

8 利用者調査の結果

アンケート方式（別紙 3-1）

9 第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント（別添 4）